

# タイトル：『汐製菓会社の新作「6フィナンシェ」』

---

## 登場人物

- ・ 汐（しお）：30代、汐製菓会社の社長。「面白きことも無き世を面白く」を信条に、奇抜な発想で新商品を生み出す。

- ・ 塩田（しおだ）：30代、汐の秘書。真面目で心配性。汐の突拍子もないアイデアに振り回されるが、実は大のお菓子好き。

## ・ 第一幕：運命の会議室

- ・ （汐製菓の会議室。ホワイトボードには「新作フィナンシェ企画」と大きく書かれている。汐はボードの前でペンを片手に、目を輝かせて立っている。塩田は少

し距離を取り、ノートを開きながらため息をついている。」

• 汐「塩田！ついに思いついたぞ！今度こそ、誰もが驚くフィナンシェだ！」

• 塩田「心配そうに」「ええ、また新作ですか…前回の“さつまいも&わさびタルト”の失敗、覚えてますか？」

• 汐「にやりと笑いながら」「覚えてるさ。でも今回のは違う。絶対にウケるぞ。今度のテーマは…“紅しようがだ！”」

• 塩田「驚きながら」「紅しようが…ですか？それ、フィナンシェに合うんですか？たこ焼きの匂いがしそうですけど。」

• 汐「自信満々に」「その通り！甘さの中にピリツとした刺激！まさに和洋折衷、世界に通用する味だ！」

• 塩田「ため息をつきながら」「社長、いつもはユニークなアイデアだって分かっています。でも、今回は少し変じゃないです

か？フィナンシエはフランスのお菓子ですよ？」

・ 汐「だからこそだ！フランスと日本の味覚を融合させる。塩田、これは革命だ！」

・ 塩田「（メモを取りながら）「まあ、でもいつものパターンで…社長、最後に“革命”って言うとき、だいたい失敗するんですけど。」

・ 汐「ふふふ、今回は違うぞ。今回は確信がある！さあ、キッチンに行くぞ。試作を作る！」

---

### ・ 第二幕…試作キッチン

・ （汐製菓の広々とした試作キッチン。調理台には小麦粉、バター、砂糖などフィナンシエの基本材料が並んでいる。その中央に異様な存在感を放つ紅しょうがの瓶。汐はエプロンをつけ、勢いよく材料

をポウルに入れている。塩田は腕を組んで見守りながら、困惑した表情。）

・ 汐「（鼻歌を歌いながら）「よし、これで準備は万全だ。紅しようがはたつぷり使うぞ！」

・ 塩田「（驚きながら）「社長、それちよつと入れすぎじゃないですか？フィナンシエの甘さが紅しようがで消えちゃうんじゃない？？」

・ 汐「そこがポイントだ！甘さと酸味、そして辛さの絶妙なバランスだよ！これぞ、他にはないフィナンシエだ！」

・ 塩田「（疑念を抱きながら）「ああ、そんな気はしてましたけど……」

・ 汐「さあ、生地を混ぜて、オープンに入れるぞ！塩田、タイマーは五分だ！」

・ （汐は生地を手際よくオープンに入れ、満足げな表情で腕組みをする。キッチンにはしばらくして、紅しようがの匂いが漂い始める。）

• 塩田：（鼻をつまんで）「うーん…やっぱりたこ焼き屋の匂いがしてきましたね。これ、ホントにフィナンシェになるんですか？」

• 汐：（自信たっぷり）「大丈夫だ。これが新しいお菓子の未来だ！」

• **第三幕：国内試食イベント**

• （汐製菓の新作発表イベントがショッピングモールで開かれている。大勢の通行人が行き交う中、テーブルには紅しょうががフィナンシェがずらりと並んでいる。汐は笑顔で呼び込みをし、塩田は少し離れて様子を見ている。）

• 汐：（声を張り上げて）「みなさん、新作フィナンシェの試食はいかがですか！日本の伝統的食材“紅しょうが”を使った、全く新しい味わいのフィナンシェです！」

- 通行人 A (驚いた表情で)「紅しようが？フィナンシェに？ちょっとヘンじゃない？」
- 通行人 B (好奇心を抱いて)「面白そうだね。ちょっと食べてみようか。」
- 汐 (にこやかに)「そうです！これまでにない味を体験してください！」
- 通行人 A (一口食べて、眉をひそめる)「……甘いのに、何これ？辛い？」
- 通行人 B (困惑しながら)「うーん、なんかたこ焼きみたいな味がするぞ。フィナンシェなのに……」
- 塩田 (心の中で)「やっぱりこうなった……」
- 汐 (満面の笑みで)「どうだい？他にはない味だろう？新しいスイーツの時代が始まったんだ！」
- 通行人 A (首をかしげて)「いや……これはちよっと……お菓子としてはどうなのかな？」

- 通行人A:「まあ、話題にはなるだろうけど、また食べたいとは思わないかも。」
- 塩田:(心の中で)「ああ、これじゃウケない…」

---

- **第四幕:国際試食イベント**

- (国際的な菓子展示会。各国のブースが立ち並ぶ中、汐製菓のブースには「紅しょうがフィナンシエ」の大きなポスターが掲げられている。汐は元気よく来場者を迎え、塩田は少し控えめに対応している。)

- 汐:「Welcome! Try our new product, 'Red Ginger Financier'!」

- 外国人B(アメリカ人、日本語訳):「え、紅しょうが?あの寿司についてるやつだろ?なんでフィナンシエに?」

- 外国人C(フランス人、日本語訳):「フィナンシエはフランスの誇りだよ?どうしてこんなことを…」

- 汐：「これが日本の伝統食材との融合です！新しい時代のフィナンシェを味わってください！」
- 外国人A：「一口食べて」……これは、たこ焼きの味？」
- 外国人B：「苦笑しながら」「これ、もうフィナンシェじゃないよ。別物だね。」
- 塩田：（小声で通訳）「彼ら、革命的だと言ってます……」
- 汐：「ほら見る！彼らも絶賛している！」
- 塩田：「いや、絶賛……というか、戸惑っているだけのようになりますが……」
- **第五幕：フィードバック会議**
  - （会社に戻り、塩田と汐が次の企画について話し合っている。会議室には試食イベントの結果を示すグラフや資料が散らばっている。）



- 汐「ふむ、国内外の反応は微妙だったが…やはり紅しようがフィナンシエ、まだ改良の余地があるな！」
- 塩田「(心を込めて)「社長、私たちのブーースの前で立ち止まってくれた方々の顔、ちょっと引きつってましたよ。」
- 汐「でも、話題にはなっただろう！特に外国人の反応が面白かった。日本の文化を広めるいい機会だ！」
- 塩田「苦笑しながら)「でも、フィナンシエとしてどうなのかと…」
- 汐「(突然ひらめいて)「あ！そうだ！次は“紅しようがフィナンシエ”の新たなバリエーションを考えよう！サクサクのクラインチを加えれば、インパクトが増す！」
- 塩田「(ため息をつきつつ)「それは…どうですかね。既に奇抜すぎる気が…」
- 汐「大丈夫！人々は私たちのスイーツを求めている。次はビジュアル重視で、インスタ映えを狙おう！」



- 汐（自信満々に）「皆さん、これが進化した紅しようがフィナンシエです！ぜひお試しください！」
- 通行人○（興味津々）「前回のよりも見た目が良いね！これ、どんな味なの？」
- 通行人□（一口食べて目を輝かせる）「わあ、意外に美味しい！甘さの中にピリツとした感じがある！」
- 通行人△（他の人に勧めながら）「これは新しい！フィナンシエのイメージが変わった！」
- 塩田（驚きつつ）「本当に受け入れられている…」
- 汐（目を輝かせて）「ほら、やっぱり日本の新しいお菓子として、世界に通用するって言っただろう？」

---

• 第八幕…大ヒットの予感

- (試食イベントの終わりに近づくと、汐は来場者の反応を見ながら興奮している。)
- 通行人A:(試食後に)「これは絶対に買います！新しいお菓子として大ヒットする予感がする！」
- 通行人B:(友人に)「これ、SNSでシェアしたらバズるかも！いいね！」
- 塩田:(信じられない様子で)「本当に大ヒットするかもしれませんね…！」
- 汐:(大はしゃぎしながら)「見たか、塩田！私の直感が正しかった！紅しようがフィンシエが日本のお菓子界に新しい風を吹き込むんだ！」
- 塩田:(微笑みながら)「いや、でも…次は何を考えているんですか？納豆フィンシエとか言いませんよね？」
- 汐:(笑いながら)「それはちよつと…でも、次も面白いアイデアを考えるぞ！」

- エンディング…新たな挑戦へ
- (汐製菓の社内。社員たちが喜びを分かち合い、社長室での会議が始まる。汐は次のプロジェクトについて話し始める。)
- 汐「次は何にしようか？みんなのアイデアを聞かせてくれ！」
- 塩田「(心の中で)「もう、驚かないことになろう…」」
- (全員が笑顔で盛り上がる中、カメラが引き、汐製菓の未来に希望をもって締めくくられる。)